

# 安曇野市公民館報

安曇野市  
中央公民館  
No.45 2018.11.7  
TEL 71-2466

## 初めての子ども公民館

### 堀金公民館が子ども公民館を開講

堀金公民館は、8月3日、7日、10日の3回にわたり、「子ども公民館」を夏休み企画として開講し



た。堀金小学校、三郷小学校、穂高北小学校、穂高西小学校の23人が参加し「科学実験」「将棋」「折り紙」の3講座に分かれ講習に取り組んだ。また、講座のほかに、夏休みの宿題解決の「学習会」、体力づくりとリフレッシュに「拾ヶ堰サイクリング」、自立の手伝いに「料理教室」を企画した。

#### 多岐にわたる講座

講座の開設にあたり、「小学校が実施しているクラブ活動は時間が少なく、もう少し追究したい」との事から、その一部でもかなえられないかと堀金公民館が企画した。「科学実験」は、国立長野工業高等専門学校教諭の渡辺誠一さん、堀口勝三さん、遠藤典夫さんを講師に迎え、初日は、風力発電機を作り電力実験に臨んだ。「将棋」



は堀金中学校教諭の本郷大輔さんが、「折り紙」は堀金公民館の山田賢一館長が講師になり、それぞれの講座に取り組んだ。宿題解決の「学習会」は元教諭の宮澤純子さんと社会教育指導員の大島春彦さん、「料理教室」は山田館長と大島さんが指導にあたった。

#### 公民館と子ども

子ども公民館の講座は初めての試みで、地域の子どもたちに活動する時間や場所を提供しようとして、堀金公民館が夏休みに開講した。子ども公民館には、体験学習や遊

びを通じて、子どもたちが成長できるように、との願いが込められている。いずれの講座も、技術と知識を身につけ、教科書や教室だけでは味わえないふれあいと体験ができる内容となっていた。

#### 子ども公民館を体験して

兄弟で参加し「将棋」を選んだ弟の宮島かなた君(堀金小2)は「講師の先生に勝てるようになりたい」と意気込みを話し、「科学実験」を選んだ兄の宮島ひなた君(堀金小4)は「実験をしてみても面白かった」と元気いっぱい笑顔で話していた。

仲良く一緒に「折り紙」に参加した高春小桃さんと中谷凜さん(ともに堀金小5)は「いつもと違う夏休みだ」と目を輝かせていた。



「料理教室」では「やり方を褒められたのがうれしかった」という声も聞かれ、講座終了後の子どもたちの生き生きとした笑顔は、公民館活動の将来の担い手を見ているような光景であった。

(東山路)

# 古きを尋ねて

## 29 他谷遺跡

(穂高・牧)



他谷遺跡調査区

他谷遺跡は、平成11(1999)年に発掘された、縄文時代中期から戦国時代の遺跡である。

割穂高線(山麓線)沿い、アートのヒルズ南の草深東部信号付近にある。農業基盤整備に伴いおよそ3000平方メートルが調査され、竪穴住居跡が45軒、その他掘立柱の建物跡、大小の石を配したお祭り広場の跡などが発見された。さらに、縄文時代の土器が約2トあまりと石器400点あまりなどが出土した。

また、この発掘で調査された範囲は、縄文時代の集落の一部に過ぎず、集落全体を調査していけば、およそ100軒以上の住居跡が発見されたと推察される。その集落域は約1800年の間、円形または馬蹄形に広がり、集落と墓域、お祭り広場等に区切られ、長期的に営まれていたことが想像で

きる。

主な出土品には広耳把手付土器がある。これは約4000(3500)年前のものと考えられ、平らな石を部分的に敷いた敷石住居の中からはほぼ完全な形で見つかった。両脇の耳状の装飾には6つの丸い穴があり、胴体部分には渦巻きの文様が刺突による列点で描かれている。煮炊きに使われた痕跡が確認されておらず、全国的に類似のない珍しい土器とされている。



長野県宝に指定された  
広耳把手付土器

この土器は平成30年9月27日に「信州の特色ある縄文土器」のひとつとして長野県宝に指定された。他に、11点の土偶や、直径約28cmの丸石も出土している。丸石を祀る信仰は八ヶ岳山麓から山梨県にかけて多く、現在でも山梨県では道祖神のお祭りに登場するという。他谷遺跡は縄文時代に限らず、弥生時代、平安時代、鎌倉時代、戦国時代と幅広い時代の遺物、建物跡が発見されている。現在遺跡現場は田畑となつていて、周囲には未だ発掘されていない遺跡が多く眠っていると考えられ、当時の暮らしへの興味をかき立てられる。

# グループ紹介

## 本村勤労協(豊科)

昭和55年に発足した本村勤労協は、安曇野市本村区に住む住民によって組織され、地域社会の向上に協力するとともに、会員の相互扶助と親睦を図ることを目的とした団体である。現在、30代から80代までの幅広い年代の78人の会員により、本会の目的を達成するために事業を行っている。



活動として、JR大糸線南豊科駅駐輪場の管理、本村公園の管理、親睦マレットゴルフ大会の開催、区内住民へのしめ飾り販売、餅つき、そば打ちなどを行っており、平成28年には35周年を迎え、記念事業として千葉房総半島を巡る親睦旅行を行った。

本村区では勤労協の会員が主体的に役割を担い、区や公民館が行う各種事業への参加や子ども会育成会への支援などを通して、地域活動の中心となりながら地域コミュニティの形成に一役かっている。南豊科駅駐輪場の管理につい

ては、市からの委託により、鉄道を利用しての学生さんや会社員の方などに気持ち良く利用して頂くことを目標に、20班による班編成で毎朝整理整頓を行っている。秋には草刈りを実施し、大雪時には速やかに除雪作業を行っている。年末の恒例行事となっているしめ飾り販売では、コミュニティセンターに会員が集まり、仕入れた牛蒡(ごぼう)じめ、玉じめ飾りに紙垂などを組み合わせ完成品にしてコミュニティセンター前での販売をしている。他に、戸別に訪問販売をし、一人暮らしの高齢者宅には、取り付けも行い気持ち良く新年を迎えて頂けるよう活動している。また、臼と杵による餅つきを行っているが会員に大変好評で年末の一大行事となっている。

今後、会員同士の親睦を深める事も重要と捉え、地域に根ざした活動を通して地域の活性化を図るとともに、超少子高齢化、人口減少社会と言われる現在においても、地域コミュニティが維持できるように貢献したい。(前会長 村山 辰市朗)



村山 辰市朗



# 私は一生懸命

健康体操クラブ会長

丸山 金治さん  
(三郷・七日市場)



三郷公民館の講堂で、毎月4回、火曜日の朝10時から50人程が集まり、安曇野市歌を歌いながら、楽しく踊るように体操に熱中している。丸山金治さん(83)が会長を務める「三郷健康体操クラブ」の仲間たちである。「三郷健康体操クラブ」は、旧三郷村時代から行政主導で30数年続いてきた「健康体操」が、平成19年12月に自主グループとして発足した。平均年齢77歳で、60代から80代の90人余の会員がいる。活動は「あづみの健康体操」(市歌を基に健康運動指導士の横山みゆきさん「市健康推進課」が考案)「ウォーキング・リズム体操」「椅子を使った体操」「健康ヨガ」の各種目を、健康運動実践指導者の佐藤貴子さん、中田勝子さんの指導を受けている。昨年度は、三郷祭の芸能発表会でクラブとして「あづみの健康体

操」を披露し、体操の普及と活動の様子をアピールした。身体の健康だけではなく、脳と心の健康も見据え、懇親会を設営して親睦を図り、市介護保険課の酒井蘭さんの指導による「ファイブ・コグ」(記憶、注意、言語、視空間認知、思考の5つの認知機能)の検査で自分の脳の状態を知るチェックを行っている。

生来のスポーツ好きで、スキーは2級を取得した。また、焼岳、燕岳の小中学校の集団登山を補佐し、一方で長野県山岳連盟のギャチュンカン(ヒマラヤ山脈の一部)登頂メンバー選抜合宿にも参加した。当時「三郷山岳会」の創設に奔走し会長を務めた。昭和33年に上高地で集中豪雨による洪水被害が発生した際に「三郷山岳会」は登山者の下山誘導に協力した。他に、20代の頃、半月かけて名古屋、東海道、甲州街道を自転車で行く旅に挑戦し、ユースホステル協会の活動にも関わった。

定年後、健康診断で保健師に勧められるままに体質改善を目指して「健康体操」を始めた。また、居住地の七日市場では祭囃子保存会で小学生に太鼓を教えてきた。今は好きなゴルフが長く続けられるように「三郷健康体操クラブ」の活動に力を注いでいる。「頑張り過ぎないように、けがをしないように、楽しくにこやかに」のスローガンを胸に掲げて心はいまだに青年である。  
(東山路)

# 地区公民館だより

## 天神原地区公民館(明科)

天神原地区は、旧明科町土地開発公社が分譲した住宅団地で、旧明科町及び近隣の市町村から人が集まり、昭和63年に天神原地区(現在は光区天神原常念)が誕生した。地区名の由来は、現在は隣の地区に祀られている天神様が、その昔、当地区に祀られていたことがあったため名付けられたと聞いている。当地区は明科地域南部に位置し、国道19号線沿い、宗林寺の西側。長野道明科バス停からは北へ約600mの場所にあり、周囲の水田より一段高い土地で西側に雄大な北アルプスを望む素晴らしい景色が自慢の68戸の地区である。

- ①明科公民館主催の行事への参加、②天神原公民館主催の行事、③各サークル活動の行事がある。
- ①明科公民館主催の行事は、7月の「あやめスポーツ大会」、10月の「明科地域運動会」への参加。②天神原公民館主催の行事は、9月の「マレットゴルフ大会」や「敬老会」、



マレットゴルフ大会  
「敬老会」

開催時期は毎年違うが「人権学習会」も行っている。

- ③各サークル活動では、高齢の住民が中心となり団地内の花壇の手入れや旅行等を行っている約25年続いている「実りの会」、団地周辺の樹木等の環境美化を行い約10年続いている「花みずき・花もも会」、今年発足した「アクティブ倶楽部」は、トレッキング、登山や各種スポーツ等のレクリエーションを行なうなど年間を通じ活動している。

いづれの活動も住民同士の交流と親睦を図る上でとても重要な機会となっている。また、これ以外に9月に明科地域南部の6公民館で行うソフトボール大会にも参加し、周辺地区の皆さんとの交流と親睦を図っている。

当地区は誕生してから30年が経ち、昨今の高齢化社会と少子化が進む中、各種行事への参加者が年々少なくなり、人集めに苦労するようになってきたが、地区の皆さんのより一層の理解と協力をいただきながら公民館活動を盛り上げていくことが、地域活性化につながっていくと思う。  
(天神原地区公民館長 中林 泰雄)



敬老会



「品物がよかった」「洋服もたくさんあった」等の声が寄せられ、主催者も満足感を得ることができ、地域の方々と喜びを共有することができた。

9月28日に恒例のひまわりクラブ主催の「ひまわり市」が三郷公民館で開催された。ひまわりクラブとは、就園前の子どもと親の交流を図る保護者たちの自主的運営のクラブである。「ひまわり市」では、家に眠っている子ども服やマタニティドレス、玩具などを会員が持ち寄り、フリーマーケット形式で販売した。  
ここでの売上金は、クラブ閉校式で子どもたちへ渡すプレゼントの費用に充てる。当日は、1000人余りの参加があり、皆が子を思い浮かべて手にとっては品定めをしていた。市販と比べ格安な品物に巡り合え、笑顔があちらこちらで見られた。アンケートには、「品物がよかった」「洋服もたくさんあった」等の声



### ほたか 火山灰で知る 烏川の生い立ち

穂高公民館は、9月20日に地域環境研究室の浅川行雄さんを講師に招き、自然体験講座「火山灰で知る烏川の生い立ち」を開催し、10人が参加した。穂高会館で開講式を行い、穂高牧地籍のゴルフ場付近へ向かった。現地では、浅川さんに説明を受けながら露頭(地層が露出した部分)を観察した。その後、烏川溪谷緑地「森の家」にて火山灰と地層についての解説を受け、実体顕微鏡で火山灰を観察した。久しぶりに顕微鏡をのぞく人も多く、一同は夢中になった。受講者の感想に「赤土のものが火山灰だと初めて知った」などの声があった。



### とよしな 建物探訪講座

豊科公民館は、昨年から続いている建物探訪講座を7月25日、9月7日に開催し、17人が参加した。講師に長野県文化財保護協会常務理事の高原正文さんを迎え、7月25日は、日輪舎・山口家・藤森新之丞家長屋門・法蔵寺・旧豊科劇場、9月7日は、信濃教育会生涯学習センター・飯田家住宅・宮澤家住宅・熊野神社本殿・旧八坂

社本殿・平福寺観音堂・務台酒造の蔵を見学した。通常では見学が難しい個人宅や日頃見逃しがちな建物を高原さんの分かりやすい解説で興味深く見学することができた。



### ほりがね フラワーボトル講座

堀金公民館は、9月11日と10月2日の2回にわたり「フラワーボトル講座」を開催し、8人が参加した。フラワーボトル講師の赤羽眞佐子さん、佐原登茂子さんの指導を受けて制作に取り組んだ。



第1回目は、生花を加工して、それぞれの構図でボトルに入れる基本作業で、出来上がった作品を砂状の乾燥剤で埋め込み、次回講座まで乾燥させた。3週間後の第2回目で乾燥剤を取り出すと、加工した日のままの鮮やかな色彩の花が姿を現した感動に、思わず歓声があがった。

参加した猿田みさ子さんは「望んでいた体験が出来て有意義な時間があった」と笑顔で語っていた。(東山路)

### あかしな 犀川の魅力と防災

明科公民館は9月6日、「明科の魅力再発見講座」犀川の魅力と防災」を明科公民館講堂と犀川川砂防事務所で開催、約20人が参加した。



明科公民館の安井邦夫館長が犀川の歴史や生息する魚類などを説明した後、講師の同事務所砂防課の樋口隆樹係長が、土砂災害の種類や地域の危険箇所などを示し、コップを活用し雨量を計測する方法を紹介した。砂防事務所では模型を使って土砂災害の実演もあり、70代の女性は「地震や集中豪雨の土砂災害の知識を今後の備えに役立てたい」と語っていた。(静流)

### 榎

水害、地震、猛暑、台風と災害続きの夏が過ぎた。私自身、今年は地区公民館の日赤奉仕団役員として、防災訓練で炊き出しを担当する。「いざ」という時、よりどころになるのも公民館の大きな役割、日頃から足を運んで地区のみなさんと交流を深めておくのも大切なことだ。(K・T)